

D-1 児童学実践者の養成に関する一考察Ⅰ —心理劇による課題活動の発展—  
東京家政学院大家政 ○鈴木百合子 吉川晴美  
お茶の水女子大家政 土屋明美

**目的** 心理劇による児童学実践者養成の方法を次の観点から明らかにする。1. 児童学実践者養成の心理劇運営方法(指導者の技法) 2. 課題状況における自己形成過程(変革促進者の養成) 3. 児童学実践者に必要な資質要件(認識、行為、操作など)の養成

**方法** 関係理論を基盤とする行為法心理劇による理論(研究)即訓練即実践が可能な小集団活動を実施し、個と集団の相即的な発展をはかりながら研究をすすめる。本学の児童学卒論研究グループにおいて実施した3回の心理劇活動の過程分析をおこない考察する。

**結果** 1. 心理劇運営方法, ①心理劇への導入, 1人で舞台を歩く, 2人でであう, 3人1組でふるまう, 観客, 演者体験。②小グループでの心理劇, 課題中心の心理劇, 観客, 演者体験。③場面設定, 役割設定の心理劇, 課題解決の心理劇, 観客, 演者, 補助自我体験。2. 課題状況における自己形成過程(状況における自己のかかわり方の発展的变化), 内在→内接→外接→持在。①状況と自己が未分化, ②状況における目立つもの目立たないものが分化, ③目立つものとの関係が深化し, 第三のものとの関係が成立, 展開。3. 資質要件の養成, ①認識—児童理解のしかたとして多面的な関係認識が成立(自己の枠を基準とした認識→場面との対応での認識→場面と日常生活との関係認識) ②行為—今, ここでの関係状況をとらえてふるまう豊富な関係体験が成立(過去の行為, 自己の枠に規定されてふるまう→現在の行為, 今ここでの関係状況をとらえてふるまう→未来的行為, 状況の発展を予測しながら今ここでふるまう) ③操作—今ここでの関係を発展させ児童における変革をもたらしうることのできる適正な関係操作が成立(生活縮図的場面設定)